

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870102401
法人名	有限会社ティーエムコーポレーション
事業所名	グループホームすみれの家
所在地	松山市北斎院町1072-1
自己評価作成日	平成27年9月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 27年 9月 30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

すみれグループの”私たちは、利用者の方々の「その人らしい生活」を大切に、穏やかで安心感にあふれる充実した生活を送ることができるようサポートします。”を基本理念として、自立、笑顔、思いやりを実現するために、①転倒を防止し、安全に暮らせる。②認知症状で物忘れや分からなくなることに驚き、悲しむ姿をみてやさしく接する。③帰宅願望があってもお一人お一人の個性を尊重し、笑顔を引き出す。④時間がかかったり、手順が分からなくても、できることはご自分でできるよう自立を支援することができる。など障害を持った高齢の方々やそのご家族が、すみれの家を”終の棲家”として選んだことに悔いが残らないよう、最後は「幸せな人生だった」と感謝されるよう日々研鑽、努力を行なっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設者の医療現場を見てきた医師は、福祉で高齢者の終の棲家を造ると言う熱い思いでこの事業所を運営されている。利用者を看取るということは大切な事ではあるが、なかなかそれに対峙出来ない現実、管理者も職員も真摯に向かい合っている。職員の話の中で、利用者もそうであるが職員同士も支え合いながらターミナルケアを行っている状況がうかがえた。「送るときは利用者みんなで玄関から送り出す」の話に、普段から丁寧な支援を行っている事が分かる。死は特別な事ではなく、でも大切な事だとしているのは、「私もちゃんと送ってもらえる、1人ではない」と、生活している利用者にも安心感を与えている。事業所の支援は、これからの高齢社会に福祉現場ができる1つの形だと言える。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含まれます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者及び非常勤職員を含まれます。

● チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含まれます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホームすみれの家

(ユニット名) 根っこ

記入者(管理者)
氏名 山本 誠一

評価完了日 平成 27年 9月 4日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 地域密着型のグループホームを目指し地域で行われる様々な行事にも参加している。管理者と職員は理念の共有をしている。</p> <p>(外部評価) 理念は運営法人により全体の事業の方向を指し示すために作られており、事業所独自の理念は、スペイン語で「やればできる」という意味の「シ・セ・プエデ」という言葉である。これは利用者や職員という枠組みではなく誰にでもあてはまることで、「人は何歳になっても“やればできる”」という意味で、理念を身近にする言葉を掲げている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	<p>(自己評価) 地域の行事である運動会・市民大清掃・盆踊り・地方祭に入居者や職員が参加したり、地域の方がホーム主催の夕涼み会や毎月1回玄関先で催す中山町特産品販売に来られ、入居者様や職員と交流を図っている。買い物サービスを受けている近所の方が、「楽しみにしている。遠方まで行けないので助かっている」と感謝される。</p> <p>(外部評価) 事業所は鉄筋の建物であるが、木造住宅が多い住宅団地にしっかりと馴染んでいる。これは、ここで長年事業所を運営している歴史から醸し出される味なのであろう。近くの小学校から下校している子ども達を、目を細めながら幾人もの利用者が窓から見送っている。この地域の住人と言った風情であり、日頃の交流が理解できる。</p>	地域の人からすると利用者は新しく引っ越してきた人であり、利用者からすると初めての土地である。それを職員が取り持って近所付き合いを成立させてきている。新しい利用者もいるが、それぞれが地域の住人となっている。ただ、仲介役の職員はそろそろ立ち位置を変える時期が来ているのではないか。利用者が主役で地域と付き合いには職員は利用者の後ろ側に控える位が良いと思う。利用者が地域の人と話すという意識を持つことにより事業所と地域の関係性は変わって行くと思われる。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) この2年程は味生小学校の生徒さんが社会見学と称してホームに来られている。入居されるお年寄りとお話したり、車椅子の操作やリクライニングベッドの操作などを体験し、障害を学ぶ場として生かされている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	<p>(自己評価) 運営推進会議は2カ月1回開催されており、ご家族様/町内会役員様/民生委員、西包括支援センター、市町村の担当者様を交えて屈託のない話し合いの場となっている。ご家族様の内情の吐露もみられ、良い会議となっている。</p> <p>(外部評価) 議事録は会議の状況が目につかぶ位に事細かく記載されている。添付しているレジュメも写真を入れて事業所の状態が良く理解でき、管理者の運営推進会議への思い入れが感じられる。議事は避難訓練、行事等や事業所での看取りについても取り上げており、多岐に渡っている。会議終了後に利用者とふれ合う時間も用意しており、会議を事業所の運営に有効活用している。</p>	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	<p>(自己評価) 公的扶助を受ける方の相談や情報の交換を行い、対象が安心して暮らせるよう支援している。この最近は公民館などで開催される会議も特になく、参加できていないが、地域密着型事業者間の集まりや勉強会には参加している。</p> <p>(外部評価) 法人は地域で介護付き有料老人ホームや短期入居者生活介護、デイサービス、居宅介護支援等を運営している。従って法人担当者は、市担当者とは事業所の事だけではなく、高齢者の全般について話し合っている。また管理者は、市担当者と利用者の実質的な相談を行っている。法人と管理者は、高齢者問題の総論と各論と言った感じで市担当者や連携を持っている。</p>	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	<p>(自己評価) 玄関は夜間10時以降朝8時までの間施錠、昼間はフリーとなっている。2階は階段がすぐ近くにあるため、危険防止のためユニットの出入りに施錠をしている。1階のユニットは夕方5時以降朝8時までの間、施錠し昼間はフリーとしている。バルーン抜去などやむおえず行なう場合はご家族様と相談し、同意書を頂くようにしている。</p> <p>(外部評価) 事業所では虐待防止・拘束廃止委員会を作り、月2回程のペースで話し合いを持っている。現在悩ましいのは利用者の「安全」を守るべきなのか、「自由」を優先すべきなのか、である。事業所は元社員寮の建物なので、高齢者の安全を守る造りにはなっていない。違反建築ではないのだが、階段の位置など細やかな配慮に欠けている所がある。現在は「安全」を優先させて2階のユニット入口に施錠をしている。しかし管理者も職員もこれがベストと思っている訳ではない。</p>	2階の利用者の安全を考慮して鍵を掛けていることは理解できる。ユニットのドアを開けて直ぐに階段があり、踏み外すと1階まで落ち命にかかわることも想定される。だが施錠は利用者の精神的な拘束になっている事が多く、階段の位置を変える事が利用者の安全を守るには理想的であるが、物理的経済的な問題で今すぐには難しいと思われる。他の方法を模索するなど、考慮を深めてほしい。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) これまでは年1回、高齢者の人権や虐待防止について職員研修を行ってきたが、本年6月からは「身体拘束廃止、虐待防止委員会」を発足し、2ヶ月に1回程度開催し、内部点検を行なっている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 対象者はいないが、必要性について全員が理解し支援について話し合っていく必要がある。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入居者様及び家族様と管理者、内容によっては医療関係者と説明を行い十分な理解同意の上で契約を行っている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 玄関には「ご意見箱」を設置し意見の収集を図っている。面会時にご要望やご意見を伺ったり、年1回全家族様からアンケート調査を行ない、満足度調査を行なっている。入居者様及び家族様のご意見ご要望は、貴重な事と受け止め、どのような事でもひとつひとつお答えできるよう日々のミーティングなどで情報の共有を行っている。 (外部評価) 家族等と話し合いが必要な場合に應對する役目は各ユニット長である。窓口を一本化しておいた方が話しの理解度が深いためである。また、年1回、事業所独自の家族アンケートを取っている。アンケート内容は家族に事業所を評価してもらおうと設問が設定されている。職員には記名者が分からないような配慮があり本音が聞け、利用者の身だしなみや部屋の掃除について段階形式な評価になっている。アンケートの集計は家族等に返送しており、信頼関係が強化できる取組みである。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の見 意見や提案を聞く機会を設け、反映させてい る	(自己評価) 管理者がユニットを訪問し、職員の意見や提案を吸い上げ 統括部長に相談している。また3ユニットの責任者と管理者 が2週間に一度の会議を持ち、責任者から報告を受け、本社 で開かれる管理者会議に於いて報告している。月に1回開催 のユニット会議で話しあったことや要望を議事録にとり、 本社にファックスしている。 (外部評価) 法人全体で考えれば管理者は中間管理職であり、様々な事 案の最終決定は代表者であるが、この事業所では管理者が 決済できる範囲が広く、職員の思いを身近で汲み取ってい る。管理者は事業所内研修では、職員が講師となることを 推奨している。職員が講師になることで管理者に相談等 で話し合いが増え、その折に事業所運営の意見が出ることも あるそうだ。職員の提案機会を増やしている取組みでもあ り、評価できる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実 績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時 間、やりがいなど、各自が向上心を持って 働けるよう職場環境・条件の整備に努めて いる	(自己評価) 個別職能レベルを把握できるよう年1回の個別面談や必要 時は個別相談を受けている。勤務シフト作成時には労働パ ターンを考慮したり、個人の希望休をできるだけ(1シフト に2回程度)反映できるよう考慮している。今後も更に向上 できるよう取り組んでいく。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケア の実際と力量を把握し、法人内外の研修を 受ける機会の確保や、働きながらトレーニ ングしていくことを進めている	(自己評価) 法人内外の研修についてその都度ユニットに情報を廻し回 覧できる仕組みを作っている。人員等で外部研修がなかな か受けられないため、社内研修を増やし、知識の向上に努 めている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流す る機会をつくり、ネットワークづくりや勉 強会、相互訪問等の活動を通じて、サービ スの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) グループホーム連絡協議会主催の相互研修に参加したり、 その都度ユニットに情報を廻し回覧できる仕組みを作っ ている。また参加を促すために、勤務時間帯に出席できるよ う人員を手厚くするような勤務シフトを作成するよう努力 している。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が 困っていること、不安なこと、要望等に耳 を傾けながら、本人の安心を確保するた め関係づくりに努めている	(自己評価) ご本人様が安心して生活していけるよう関わりを多く持ち 良好な関係作りを行っている。また利用前訪問調査表を基 礎知識としながら実際の状態との差を考えご本人様の求め る「支援」・必要な「支援」に擦り合わせ、個別の安心や安 楽を追求する努力をしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) ご入居までの流れについて資料を使いご説明し、ご入居申し込みから利用前訪問調査時の際に不安やご要望お伺いし、サービス開始後にお話しした事との内容に差がないようにしている。	
17		○初期対応の見極めと支援サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) ご入居までの流れを資料を使いご説明し、ご入居申し込み～ご入居のご契約～利用前訪問調査時の際に、必要な支援をお伺いし見極め、その人にとっての「良好」な状態を保つ様に努力している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 本人様やご家族様、また介護の中で得られる情報を整理し出来る事を見出し実践できるよう支援している。そこから共有・共感できる関係作りをじっくり行っている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 本人様と家族様の中間的立場を意識し、報告や連絡・相談を密に行い共にご入居者様を支えていけるよう努力している。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) ご面会は※1特別な事情(※1…本人様・家族様のご要望等)がない限りは早朝、昼間、夜間でも就寝前であれば、いつでも対応可能としている。特に入所もないケースではご家族様の面会を出来るだけ多く、毎日でも来ていただけるようお願いしている。 (外部評価) 事業所では「ここが終の棲家」と利用者や家族に話しをしている。「この場所に馴染む、この人間関係に馴染む」ための支援に心を砕いている。さらに、利用者の「家に帰りたい」は自宅ではなく、「自分自身の1番いい時代に帰りたい」と言っている事が少なくない和管理者は言う。認知症かどうかに関係なく、人間本来の気持ちに寄り添って馴染むことを支援している事業所である。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 入居者が孤立することなく、共に暮らしの中で助け合えるよう、共通の話題作りを投げかけ、外出をはじめ各種行事やお手伝いを通して共に生活を「楽しめる」様に支援している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) この5年間に在宅に移行したケースはなく、特養に1件と後は治療が必要となり、病院に移ったケースがある。移り「移り住む事のダメージ」を最小限に食い止めるため家族様や移り住む先の関係者に対して、ケアの工夫・生活習慣などの情報を伝える支援を行っている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 生活を援助する上で一番大切な部分であり、その時々によっても変化する意向の収集を行い日報等に記入している。またその情報を活かせるようショートミーティングを開き実践している。対応が難しい場合には、ご家族様へ相談を行いなるべくご意向に沿えるよう努力している。 (外部評価) 管理者は職員に、利用者の事が分からなくなったら、「自分だったら、自分の家族だったらどう思うか」と話し、利用者を理解する原点についてアドバイスしている。食事の時に職員が「これじゃなかった？えっこれで良かったの、ああやっぱり」と言っていた。管理者が言っている「自分だったら」の指導が行き届いていると感じられた。今や職員はこれが普通の業務になっており、利用者本位の支援である。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 利用前訪問調査時の際に、生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等が分かるような聞き取りを行い、これまでの生活が維持できるよう努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 利用前訪問調査時の際に、一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の状態が分かるような聞き取りを行っている。ご入居後にも、情報を基に生活のリズムに沿って心身状態、有する力の把握をしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	<p>(自己評価) 本人様、家族様の意向を確認し、プランに反映している。ご利用開始時は初回作成として1か月(退院時も含む)、その後は3か月に一度更新を基本としている。またモニタリングを1か月に1度ユニット会議でおこなっている。</p> <p>(外部評価) 事業所の記録の整備と記載状況をみると、介護計画もモニタリングもきっちりしている事が分かる。介護計画では、その項目がなぜ必要かを分析・記録しており、モニタリングでもできない行為にも意味を見出している。記録の清書を管理者がしていると聞いたため、「とても時間を要しますね」と聞くと、「気が付いたら窓の外が真っ暗になっており、職員がまだ帰らないのかと言っている」と笑っていた。この気持ちが「チームでつくる」を下支えしていると感じられた。</p>	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	<p>(自己評価) 職員間で情報を共有しながら、職員しか知り得ない事柄(個別のコミュニケーション方法)やケアの気づきを具体的に記入しながら介護計画の見直しに活かしている。</p>	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	<p>(自己評価) 外出希望等の急なニーズ等にも出来る限り対応できるよう努力している。</p>	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	<p>(自己評価) 年間計画を立て、毎月、ボランティアによる行事をデイサービスと合同で開催している。また近隣の美容院より出張サービスがあり、利用をしている。また可能な限りご本人様と共に美容院へ出向く事も行っている。今後更に向上を図っていきたい。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	<p>(自己評価) 2週間に一度かかりつけ医の個別訪問診療を受けている。 馴染みの先生という観点からも安心した適切な医療を受け られるように支援している。また状態やご希望があれば、 他病院の受診もご家族様と相談して行なっている。</p> <p>(外部評価) 元々の法人代表者は診療所の医者であったため、かかりつ け医は入居時に事業所の協力医に変わる取り決めがあっ た。現在の代表者は奥様が変わっているが、その取り決め は今も継続している。これは利用者や家族等も納得してお り、システム化されている事業所の医療支援に安心感の高 い。</p>	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	<p>(自己評価) 表情や体調等に変化があれば、看護師に相談を行う。直ぐ に対応が必要な場合は主治医へ連絡し指示を仰ぎ対応して いる。また2週間に1度の訪問診療時には状態を医師へ報告 し個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支 援している。</p>	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行って いる。	<p>(自己評価) 入退院時は、病院関係者と情報交換(入院時には、ホーム から看護サマリーを作成し、基本情報やお薬の説明、入院 までの経緯を提供している。退院時には病院から看護サマ リーや診療情報をいただいている。)を行っている。また入 院中も出来る限りお見舞いに行き、情報を取り入れること としている。</p>	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価) ご入居の際に一律に「看取りに関する指針」を提示ご説明し ている。時期が来た場合に家族様、主治医、管理者、ユ ニット長、看護師にて重度化や終末期に向けた方針の共有 と支援について話し合いを行っている。同時に看取りのケ アプランを作成し、(連絡/相談/報告しながら必要に応じて 見直し。)職員全体で支援に取り組んでいる</p> <p>(外部評価) 法人の方針で「事業所を終の棲家に」の体制作りを開設段 階から進めている。事業所も開設14年目になるので、多 くの方の看取りを経験している。職員達も異口同音に「最 後までお世話できて良かった」と言い、職員間で支え合う 仕組みができていく事が分かる。亡くなられた時は、他の 利用者と共に玄関で見送っているとのことで、命と真摯に 向かい合っている取組みである。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) マニュアルを作成し設置している。また一目で分かるようなフローチャートも作成し掲示している。また看取り時の特殊な対応に関しても対象者別に作成し、ファイリングを行っている。実践力に関しては定期的な訓練で補って行きたい。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) マニュアルを作成し設置している。年に2回消防署立会いの上、消防訓練は行っている。災害対応の実践力に関しては課題が残されており定期的な訓練を行っていききたい。 (外部評価) 事業所内の家具には転倒予防の金具を、棚の物には落下防止をと災害に関して日頃から対策を練っている。車いす用トイレには、手を伸ばしやすい所に籐の籠が置いてあり、何気なく中身に目をやると大型の懐中電灯があった。夜間避難する時、トイレで停電すると身繕い等で手間取るし、足元が危ない。そのための備えで置いていることに気が付いた。あらゆることを想定した備品配置を見て、災害対策がしっかりしている事を確認した。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 日々のショートミーティング時や月に1度のユニットカンファレンスの際に個別対応についての報告連絡相談を行い一人ひとりの尊重とプライバシーの確保に努めている。 (外部評価) 元社員寮の造りには、部屋に入ったらプライベート空間と言った雰囲気がある。職員は居室のドア越しに「失礼します」と声を掛けており、ハード面と合せてプライバシーの確保ができています。ある部屋の前に三味線の「師範」の立派な木目の看板があった。その人の生きてきた証であり、今もその時代を感じて貰いたいという事業所の思いでもある。人格を尊重している支援と言える。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 起床時間・食事形態や衣類選定等で希望表出/自己決定の場数を数多く設けられる様に見守りや声掛けの支援を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 居室で過ごしたい時は居室で…等やりたい事がある方にはこちらの流れを押しつけず自分流の方法で過ごして頂く様見守りを行っている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 起床時、洗面、口腔、整髪、衣類など本人の希望を聞き皆さんに自分でできる範囲の身だしなみをおこなっていただく。きれいになっていく喜びを分かち合う。更衣が自力可能な方には重ね着になっていないか、季節に合った物を着ているかなど観察し対応している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 嫌いな食事は量を減らしたり、他の物と替えたりと少しでも食べて頂けるようにしている。また、体調や嚥下状態に合わせてお粥、刻み、ミキサー食等にも細かく対応している。料理の下準備や盛り付け、後片付けなど出来る方にはお手伝いをお願いしている。	
			(外部評価) 食事は3ユニットそれぞれでメニューが異なっていた。利用者の好みを中心に献立を考えているため、お粥やミキサー食、刻み食にも対応しており、ユニット毎に調理には個性がある。医療的ケアに職員の手が取られると、食事の提供時間を短縮する傾向がみられるようになるが、この事業所では「準備や後片付けも食事を楽しむ時間、特に調理の音や匂い」と手作りにこだわっている。男性の利用者がテレビに目をやりながらも、台所を気にする昔ながらの優しい食事の一時であった。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事の量はその方が食べれる量を盛ったり、介助の必要な方に対しては食べ易くカットしたりミキサーやトロミにて一人ひとりに応じた食事形態を心掛けている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 歯磨き、うがいの出来ない方にはガーゼを湿らせて拭き取る。忘れる方へは出来るところまで声掛けをしていき後のケアを介助していく。義歯は就寝前に外し洗浄液につけている。口腔内のチェックを常に行い、清潔保持に努めています。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<p>(自己評価) 管理表を使用し、一人ひとりの排泄パターンの把握に努め、声掛けや誘導を行っている。トイレでの自然な排泄を大切に、リハビリパンツやパット類も入居者様に合わせて調節している。排泄動作が自立している方は誘導や後始末の支援を実施している。</p> <p>(外部評価) 利用者の殆んどは、昼間だけでなく夜間もトイレで排泄を行っている。勿論職員が見守っているが、気兼ねなくトイレ誘導を依頼できる安心感があるからだろう。「トイレの方が気持ちいい」と利用者の本音を察知している表れと言える。利用者の状態を見て紙パンツやパッド等を使う場合もあるが、利用者に気を使わせない排泄支援である。</p>	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<p>(自己評価) 乳製品の食品や、便秘に良いとされる野菜や果物類を食事に取り入れる。水分補給を行う。本人の負担にならないようにレベルに合った運動を一緒に行う。2日3日排便のない場合は緩下剤を服用していただく。</p>	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	<p>(自己評価) 家族の面会の時間は避ける。また入浴時は、個別性を考慮し時には対面で、時には透き戸の向こうでお話をしながら30分程度を目安に支援している。入浴される方によるが、必要時は二人介助で安全におこなっている、入居されている皆様のご希望通り入浴して頂く事は難しい場合は、足浴や清拭を実施している。</p> <p>(外部評価) 利用者の入浴動作が見守りや軽介助の場合はユニットのお風呂を使うが、座位に問題がある場合は併設しているデイサービスの特浴を活用している。「お湯は一人ひとり入れ替えるので時間が掛り、1日4人程度です」と職員は言うが、共同生活でも個浴を楽しんでほしいとの配慮である。夏場と冬場、汗をかいた日、排泄に失敗があった等、利用者の状態を見ながら入浴支援は行われている。</p>	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<p>(自己評価) 体調の具合や寒がり、暑がりなどその方のペースに合わせて布団の調整をする。照明を調整する。妨げにならない程度に夜のテレビは意志どおりに見ていただき、終わり次第就寝を促す。就寝前のトイレ誘導や水分補給など安心して気持ちよく寝ることができるようにしている。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 訪問診療時に処方が変わった時には服薬ノートに記入する。職員に申し送りをする。誰が見ても間違いがなく判り易いセットの仕方を工夫している。症状の変化の有無を常に話し合っていく。また薬の変更等があった場合はご家族様に報告している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 個人の得意分野を理解した上で体調や表情を見ながらお願いし達成感を感じていただいている。毎日のテレビを見ながら、世相などを話しコミュニケーションを図っている。話をしながらの作業は気分転換にもなっていると思われる。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 毎月一回なるべく全員で出かけられるよう外出計画を立てている。また、年1回、ホーム全体で恒例の日帰旅行を実施している。今年はリフト付バスで津島町の南楽園に行き、参加者は入居者13名、ご家族様5名、職員9名の27名でした。その内、根っこからは入居者6名、ご家族1名、職員4名でした。 (外部評価) デイサービスを併設しているため、外出する際の車両は整っている。そのため遠出の外出は定期的実施し、また、管理者が外出する際には希望する人が同乗し、ドライブを楽しんでいる。1階の利用者は車いすでも気軽に外出ができ、外気を浴びている。その時間が1日のアクセントになっている。しかし、2階の利用者は危険回避の観点からユニット入りロドアが施錠されているため、それができない。日々の気軽な外気浴に工夫がほしい。	施錠の問題は身体拘束の観点でも解決する道を模索願いたい。外気浴では南側にデッキを造る構想があるとのこと。南側は田畑でその向こうに山裾が見え、季節が感じられる風景なので、2階部分に外気浴デッキを造るには予算上の問題はあるが、利用者の生活の質は上がるので一考願いたい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 認知症や物忘れがあるため、一部の方を除き、小口現金としてユニットで管理をしている。ご自分がお金を持っておく当たり前の状態が実践できていない。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) ご本人様の希望を第一に受け止め相手方のお許しがある場合は家族や大切な人に本人自らが電話をしたりできるような必ず支援を行っている。また言葉や表情を観察し「求め」を察する事ができる場合にも、職員が窓口となり支援をしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 夜間トイレ使用時トイレ周りの照明を点けておく。個人に合わせた温度設定をする。昼間横になる時にはカーテンを閉め眩しくない様にしておく。。壁飾りを作っている。2日に1回は掃除機をあてきれいにする。</p> <p>(外部評価) 共用空間は心地よい適度な広さである。台所も同じ空間なので一体感もあり、家庭的な空間と言って良い。廊下の突き当たりで共用空間を配しているの独立性が高く、利用者それぞれの部屋と違う場所に来たと言う実感がある。空間にメリハリがきいて楽しい。住宅地に建っているため、窓からは人の生活が感じられる。視線を変えるだけでそれを見る事ができるリビングは、落ち着いて過ごせる空間となっている。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) アットホームな環境で食事の手伝いやタオルたたみなどを行ないながら、気の合う方同士でお話をされたりしています。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) ご入居時に、家具類、テレビ、布団、衣類等身の回りの全ての物品はご家族と相談し環境が許される限り本人の好みの物、使い慣れた覚えのあるもので揃えるようにしている。</p> <p>(外部評価) 社員寮を改装しているため洗面できる前室があり、居室の独立性が高い。また、床は元畳だったのをシート材に変更しているが、畳にも戻せるよう改装しているので、ベッドが苦手な人等は畳にしている。床材が畳でもシート材でも何時でも変えられるという気軽さはこの事業所ならではの工夫である。管理者の発案で、部屋にはその人が1番充実していたであろう時代の写真を飾っている。居室を利用者が自分を取り戻す空間としている支援であり、評価できる。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 一人ひとりの身体機能及び安全・安楽を考慮した工夫や失敗を招くことのない環境整備を今後図っていく。</p>	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870102401
法人名	有限会社ティーエムコーポレーション
事業所名	グループホームすみれの家
所在地	松山市北斎院町1072-1
自己評価作成日	平成27年9月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 27年 9月 30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

すみれグループの”私たちは、利用者の方々の「その人らしい生活」を大切に、穏やかで安心感にあふれる充実した生活を送ることができるようサポートします。”を基本理念として、自立、笑顔、思いやりを実現するために、①転倒を防止し、安全に暮らせる。②認知症状で物忘れや分からなくなることに驚き、悲しむ姿をみてやさしく接する。③帰宅願望があってもお一人お一人の個性を尊重し、笑顔を引き出す。④時間がかかったり、手順が分からなくても、できることはご自分でできるよう自立を支援することができる。など障害を持った高齢の方々やそのご家族が、すみれの家を”終の棲家”として選んだことに悔いが残らないよう、最後は「幸せな人生だった」と感謝されるよう日々研鑽、努力を行なっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設者の医療現場を見てきた医師は、福祉で高齢者の終の棲家を造ると言う熱い思いでこの事業所を運営されている。利用者を看取るということは大切な事ではあるが、なかなかそれに対峙出来ない現実、管理者も職員も真摯に向かい合っている。職員の話の中で、利用者もそうであるが職員同士も支え合いながらターミナルケアを行っている状況がうかがえた。「送るときは利用者みんなで玄関から送り出す」の話し、普段から丁寧な支援を行っている事が分かる。死は特別な事ではなく、でも大切な事だとしているのは、「私もちゃんと送ってもらえる、1人ではない」と、生活している利用者にも安心感を与えている。事業所の支援は、これからの高齢社会に福祉現場ができる1つの形だと言える。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I.理念に基づく運営

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者及び非常勤職員を含みます。

● チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホームすみれの家

(ユニット名) 葉っぱ

記入者(管理者)

氏名 山本 誠一

評価完了日 平成 27年 9月 4日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 地域密着型のグループホームを目指し地域で行われる様々な行事にも参加している。管理者と職員は理念の共有をしている。	
			(外部評価) 理念は運営法人により全体の事業の方向を指し示すために作られており、事業所独自の理念は、スペイン語で「やればできる」という意味の「シ・セ・プエデ」という言葉である。これは利用者や職員という枠組みではなく誰にでもあてはまることで、「人は何歳になっても“やればできる”」という意味で、理念を身近にする言葉を掲げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	(自己評価) 地域の行事である運動会・市民大清掃・盆踊り・地方祭に入居者や職員が参加したり、地域の方がホーム主催の夕涼み会や毎月1回玄関先で催す中山町特産品販売に来られ、入居者様や職員と交流を図っている。買い物サービスを受けている近所の方が、「楽しみにしている。遠方まで行けないので助かっている」と感謝される。	
			(外部評価) 事業所は鉄筋の建物であるが、木造住宅が多い住宅団地にしっかりと馴染んでいる。これは、ここで長年事業所を運営している歴史から醸し出される味なのであろう。近くの小学校から下校している子ども達を、目を細めながら幾人もの利用者が窓から見送っている。この地域の住人と言った風情であり、日頃の交流が理解できる。	地域の人からすると利用者は新しく引っ越してきた人であり、利用者からすると初めての土地である。それを職員が取り持って近所付き合いを成立させてきている。新しい利用者もいるが、それぞれが地域の住人となっている。ただ、仲介役の職員はそろそろ立ち位置を変える時期が来ているのではないか。利用者が主役で地域と付き合いには職員は利用者の後ろ側に控える位が良いと思う。利用者が地域の人と話すという意識を持つことにより事業所と地域の関係性は変わって行くと思われる。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) この2年程は味生小学校の生徒さんが社会見学と称してホームに来られている。入居されるお年寄りとお話したり、車椅子の操作やリクライニングベッドの操作などを体験し、障害を学ぶ場として生かされている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	<p>(自己評価)</p> <p>運営推進会議は2カ月1回開催されており、ご家族様/町内会役員様/民生委員、西包括支援センター、市町村の担当者様を交えて屈託のない話し合いの場となっている。ご家族様の内情の吐露もみられ、良い会議となっている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>議事録は会議の状況が目につかぶ位に事細かく記載されている。添付しているレジュメも写真を入れて事業所の状態が良く理解でき、管理者の運営推進会議への思い入れが感じられる。議事は避難訓練、行事等や事業所での看取りについても取り上げており、多岐に渡っている。会議終了後に利用者とお話しする時間も用意しており、会議を事業所の運営に有効活用している。</p>	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	<p>(自己評価)</p> <p>公的扶助を受ける方の相談や情報の交換を行い、対象が安心して暮らせるよう支援している。この最近では公民館などで開催される会議も特になく、参加できていないが、地域密着型事業者間の集まりや勉強会には参加している。</p> <p>(外部評価)</p> <p>法人は地域で介護付き有料老人ホームや短期入居者生活介護、デイサービス、居宅介護支援等を運営している。従って法人担当者は、市担当者とは事業所の事だけではなく、高齢者の全般について話し合っている。また管理者は、市担当者と利用者の実質的な相談を行っている。法人と管理者は、高齢者問題の総論と各論と言った感じで市担当者や連携を持っている。</p>	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	<p>(自己評価)</p> <p>玄関は夜間10時以降朝8時までの間施錠、昼間はフリーとなっている。2階は階段がすぐ近くにあるため、危険防止のためユニットの出入りに施錠をしている。1階のユニットは夕方5時以降朝8時までの間、施錠し昼間はフリーとしている。バルーン抜去などやむおえず行なう場合はご家族様と相談し、同意書を頂くようにしている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>事業所では虐待防止・拘束廃止委員会を作り、月2回程のペースで話し合いを持っている。現在悩ましいのは利用者の「安全」を守るべきなのか、「自由」を優先すべきなのか、である。事業所は元社員寮の建物なので、高齢者の安全を守る造りにはなっていない。違反建築ではないのだが、階段の位置など細やかな配慮に欠けている所がある。現在は「安全」を優先させて2階のユニット入口に施錠をしている。しかし管理者も職員もこれがベストと思っている訳ではない。</p>	2階の利用者の安全を考慮して鍵を掛けていることは理解できる。ユニットのドアを開けて直ぐに階段があり、踏み外すと1階まで落ち命にかかわることも想定される。だが施錠は利用者の精神的な拘束になっている事が多く、階段の位置を変える事が利用者の安全を守るには理想的であるが、物理的経済的な問題で今すぐには難しいと思われる。他の方法を模索するなど、考慮を深めてほしい。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) これまでは年1回、高齢者の人権や虐待防止について職員研修を行ってきたが、本年6月からは「身体拘束廃止、虐待防止委員会」を発足し、2ヶ月に1回程度開催し、内部点検を行なっている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 対象者はいないが、必要性について全員が理解し支援について話し合っていく必要がある。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入居者様及び家族様と管理者、内容によっては医療関係者と説明を行い十分な理解同意の上で契約を行っている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 玄関には「ご意見箱」を設置し意見の収集を図っている。面会時にご要望やご意見を伺ったり、年1回全家族様からアンケート調査を行ない、満足度調査を行なっている。入居者様及び家族様のご意見ご要望は、貴重な事と受け止め、どのような事でもひとつひとつお答えできるよう日々のミーティングなどで情報の共有を行っている。 (外部評価) 家族等と話し合いが必要な場合に應對する役目は各ユニット長である。窓口を一本化しておいた方が話しの理解度が深いためである。また、年1回、事業所独自の家族アンケートを取っている。アンケート内容は家族に事業所を評価してもらおうと設問が設定されている。職員には記名者が分からないような配慮があり本音が聞け、利用者の身だしなみや部屋の掃除について段階形式な評価になっている。アンケートの集計は家族等に返送しており、信頼関係が強化できる取組みである。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の見 意見や提案を聞く機会を設け、反映させてい る	(自己評価) 管理者がユニットを訪問し、職員の意見や提案を吸い上げ 統括部長に相談している。また3ユニットの責任者と管理者 が2週間に一度の会議を持ち、責任者から報告を受け、本社 で開かれる管理者会議に於いて報告している。月に1回開催 のユニット会議で話しあったことや要望を議事録にとり、 本社にファックスしている。 (外部評価) 法人全体で考えれば管理者は中間管理職であり、様々な事 案の最終決定は代表者であるが、この事業所では管理者が 決済できる範囲が広く、職員の思いを身近で汲み取ってい る。管理者は事業所内研修では、職員が講師となることを 推奨している。職員が講師になることで管理者に相談等 で話し合いが増え、その折に事業所運営の意見が出ることも あるそうだ。職員の提案機会を増やしている取組みでもあ り、評価できる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実 績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時 間、やりがいなど、各自が向上心を持って 働けるよう職場環境・条件の整備に努めて いる	(自己評価) 個別職能レベルを把握できるよう年1回の個別面談や必要時 は個別相談を受けている。勤務シフト作成時には労働パ ターンを考慮したり、個人の希望休をできるだけ(1シフト に2回程度)反映できるよう考慮している。今後も更に向上 できるよう取り組んでいく。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケア の実際と力量を把握し、法人内外の研修を 受ける機会の確保や、働きながらトレーニ ングしていくことを進めている	(自己評価) 法人内外の研修についてその都度ユニットに情報を廻し回 覧できる仕組みを作っている。人員等で外部研修がなかな か受けられないため、社内研修を増やし、知識の向上に努 めている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流す る機会をつくり、ネットワークづくりや勉 強会、相互訪問等の活動を通じて、サービ スの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) グループホーム連絡協議会主催の相互研修に参加したり、 その都度ユニットに情報を廻し回覧できる仕組みを作っ ている。また参加を促すために、勤務時間帯に出席できるよ う人員を手厚くするような勤務シフトを作成するよう努力 している。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が 困っていること、不安なこと、要望等に耳 を傾けながら、本人の安心を確保するた めの関係づくりに努めている	(自己評価) ご本人様が安心して生活していけるよう関わりを多く持ち 良好な関係作りを行っている。また利用前訪問調査表を基 礎知識としながら実際の状態との差を考えご本人様の求め る「支援」・必要な「支援」に擦り合わせ、個別の安心や安 楽を追求する努力をしている。	

自己 評価	外部 評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) ご入居までの流れについて資料を使いご説明し、ご入居申し込みから利用前訪問調査時の際に不安やご要望お伺いし、サービス開始後にお話しした事との内容に差がないようにしている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) ご入居までの流れを資料を使いご説明し、ご入居申し込み～ご入居のご契約～利用前訪問調査時の際に、必要な支援をお伺いし見極め、その人にとっての「良好」な状態を保つ様に努力している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 本人様やご家族様、また介護の中で得られる情報を整理し出来る事を見出し実践できるよう支援している。そこから共有・共感できる関係作りをじっくり行っている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 本人様と家族様の中間的立場を意識し、報告や連絡・相談を密に行い共にご入居者様を支えていけるよう努力している。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) ご面会は※1特別な事情(※1…本人様・家族様のご要望等)がない限りは早朝、昼間、夜間でも就寝前であれば、いつでも対応可能としている。特に入所もないケースではご家族様の面会を出来るだけ多く、毎日でも来ていただけるようお願いしている。 (外部評価) 事業所では「ここが終の棲家」と利用者や家族に話しをしている。「この場所に馴染む、この人間関係に馴染む」ための支援に心を砕いている。さらに、利用者の「家に帰りたい」は自宅ではなく、「自分自身の1番いい時代に帰りたい」と言っている事が少なくないと管理者は言う。認知症かどうかに関係なく、人間本来の気持ちに寄り添って馴染むことを支援している事業所である。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 入居者様が孤立することなく、共に暮らしの中で助け合えるよう、共通の話題作りを投げかけ、外出をはじめ各種行事やお手伝いを通して共に生活を「楽しめる」様に支援している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) この5年間に在宅に移行したケースはなく、治療が必要となり、病院に移ったケースがある。移り「移り住む事のダメージ」を最小限に食い止めるため家族様や移り住む先の関係者に対して、ケアの工夫・生活習慣などの情報を伝える支援を行っている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 生活を援助する上で一番大切な部分であり、その時々によっても変化する意向の収集を行い日報等に記入している。またその情報を活かせるようショートミーティングを開き実践している。対応が難しい場合には、ご家族様へ相談を行いなるべくご意向に沿えるよう努力している。 (外部評価) 管理者は職員に、利用者の事が分からなくなったら、「自分だったら、自分の家族だったらどう思うか」と話し、利用者理解する原点についてアドバイスしている。食事の時に職員が「これじゃなかった？えっこれで良かったの、ああやっぱり」と言っていた。管理者が言っている「自分だったら」の指導が行き届いていると感じられた。今や職員はこれが普通の業務になっており、利用者本位の支援である。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 利用前訪問調査時の際に、生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等が分かるような聞き取りを行い、これまでの生活が維持できるよう努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 利用前訪問調査時の際に、一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の状態が分かるような聞き取りを行っている。ご入居後にも、情報を基に生活のリズムに沿って心身状態、有する力の把握をしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	<p>(自己評価) 本人様、家族様の意向を確認し、プランに反映している。ご利用開始時は初回作成として1か月(退院時も含む)、その後は3か月に一度更新を基本としている。またモニタリングを1か月に1度ユニット会議でおこなっている。</p> <p>(外部評価) 事業所の記録の整備と記載状況をみると、介護計画もモニタリングもきちりしている事が分かる。介護計画では、その項目がなぜ必要かを分析・記録しており、モニタリングでもできない行為にも意味を見出している。記録の清書を管理者がしていると聞いたため、「とても時間を要しますね」と聞くと、「気が付いたら窓の外が真っ暗になっており、職員がまだ帰らないのかと言っている」と笑っていた。この気持ちが「チームでつくる」を下支えしていると感じられた。</p>	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	<p>(自己評価) 職員間で情報を共有しながら、職員しか知り得ない事柄(個別のコミュニケーション方法)やケアの気づきを具体的に記入しながら介護計画の見直しに活かしている。</p>	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	<p>(自己評価) 外出希望等の急なニーズ等にも出来る限り対応できるよう努力している。</p>	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	<p>(自己評価) 年間計画を立て、毎月、ボランティアによる行事をデイサービスと合同で開催している。また近隣の美容院より出張サービスがあり、利用をしている。また可能な限りご本人様と共に美容院へ出向く事も行っている。今後更に向上を図っていきたい。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 2週間に一度かかりつけ医の個別訪問診療を受けている。馴染みの先生という観点からも安心した適切な医療を受けられるように支援している。また状態やご希望があれば、他病院の受診もご家族様と相談して行なっている。 (外部評価) 元々の法人代表者は診療所の医者であったため、かかりつけ医は入居時に事業所の協力医に変わる取り決めがあった。現在の代表者は奥様が変わっているが、その取り決めは今も継続している。これは利用者や家族等も納得しており、システム化されている事業所の医療支援に安心感が高い。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価) 表情や体調等に変化があれば、看護師に相談を行う。直ぐに対応が必要な場合は主治医へ連絡し指示を仰ぎ対応している。また2週間に1度の訪問診療時には状態を医師へ報告し個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入退院時は、病院関係者と情報交換(入院時には、ホームから看護サマリーを作成し、基本情報やお薬の説明、入院までの経緯を提供している。退院時には病院から看護サマリーや診療情報をいただいている。)を行っている。また入院中も出来る限りお見舞いに行き、情報を取り入れることとしている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) ご入居の際に一律に「看取りに関する指針」を提示ご説明している。時期が来た場合に家族様、主治医、管理者、ユニット長、看護師にて重度化や終末期に向けた方針の共有と支援について話し合いを行っている。同時に看取りのケアプランを作成し、(連絡/相談/報告しながら必要に応じて見直し。)職員全体で支援に取り組んでいる (外部評価) 法人の方針で「事業所を終の棲家に」の体制作りを開設段階から進めている。事業所も開設14年目になるので、多くの方の看取りを経験している。職員達も異口同音に「最後までお世話できて良かった」と言い、職員間で支え合う仕組みができていく事が分かる。亡くなられた時は、他の利用者と共に玄関で見送っているとのことで、命と真摯に向かい合っている取組みである。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) マニュアルを作成し設置している。また一目で分かるようなフローチャートも作成し掲示している。また看取り時の特殊な対応に関しても対象者別に作成し、ファイリングを行っている。実践力に関しては定期的な訓練で補って行きたい。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) マニュアルを作成し設置している。年に2回消防署立会いの上、消防訓練は行っている。災害対応の実践力に関しては課題が残されており定期的な訓練を行っていききたい。 (外部評価) 事業所内の家具には転倒予防の金具を、棚の物には落下防止をと災害に関して日頃から対策を練っている。車いす用トイレには、手を伸ばししやすい所に籐の籠が置いてあり、何気なく中身に目をやると大型の懐中電灯があった。夜間避難する時、トイレで停電すると身繕い等で手間取るし、足元が危ない。そのための備えで置いていることに気が付いた。あらゆることを想定した備品配置を見て、災害対策がしっかりしている事を確認した。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 日々のショートミーティング時や月に1度のユニットカンファレンスの際に個別対応についての報告連絡相談を行い一人ひとりの尊重とプライバシーの確保に努めている。 (外部評価) 元社員寮の造りには、部屋に入ったらプライベート空間と言った雰囲気がある。職員は居室のドア越しに「失礼します」と声を掛けており、ハード面と合せてプライバシーの確保ができています。ある部屋の前に三味線の「師範」の立派な木目の看板があった。その人の生きてきた証であり、今もその時代を感じて貰いたいという事業所の思いでもある。人格を尊重している支援と言える。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 起床時間・食事形態や衣類選定等で希望表出/自己決定の場面を数多く設けられる様に見守りや声掛けの支援を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 居室で過ごしたい時は居室で…等やりたい事がある方にはこちらの流れを押しつけず自分流の方法で過ごして頂く様見守りを行っている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 起床時、洗面、口腔、整髪、衣類など本人の希望を聞き皆さんに自分でできる範囲の身だしなみをおこなっていただく。きれいになっていく喜びを分かち合う。更衣が自力可能な方には重ね着になっていないか、季節に合った物を着ているかなど観察し対応している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 嫌いな食事は量を減らしたり、他の物と替えたりと少しでも食べて頂けるようにしている。また、体調や嚥下状態に合わせてお粥、刻み、ミキサー食等にも細かく対応している。料理の下準備や盛り付け、後片付けなど出来る方にはお手伝いをお願いしている。	
			(外部評価) 食事は3ユニットそれぞれでメニューが異なっていた。利用者の好みを中心に献立を考えているため、お粥やミキサー食、刻み食にも対応しており、ユニット毎に調理には個性がある。医療的ケアに職員の手が取られると、食事の提供時間を短縮する傾向がみられるようになるが、この事業所では「準備や後片付けも食事を楽しむ時間、特に調理の音や匂い」と手作りにこだわっている。男性の利用者がテレビに目をやりながらも、台所を気にする昔ながらの優しい食事の一時であった。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事の量はその方が食べれる量を盛ったり、介助の必要な方に対しては食べ易くカットしたりミキサーやトロミにて一人ひとりに応じた食事形態を心掛けている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 歯磨き、うがいの出来ない方にはガーゼを湿らせて拭き取る。忘れる方へは出来るところまで声掛けをしていき後のケアを介助していく。義歯は就寝前に外し洗浄液につけている。口腔内のチェックを常に行い、清潔保持に努めています。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<p>(自己評価) 管理表を使用し、一人ひとりの排泄パターンの把握に努め、声掛けや誘導を行っている。トイレでの自然な排泄を大切に、リハビリパンツやパット類も入居者様に合わせて調節している。排泄動作が自立している方は誘導や後始末の支援を実施している。</p> <p>(外部評価) 利用者の殆んどは、昼間だけでなく夜間もトイレで排泄を行っている。勿論職員が見守っているが、気兼ねなくトイレ誘導を依頼できる安心感があるからだろう。「トイレの方が気持ちいい」と利用者の本音を察知している表れと言える。利用者の状態を見て紙パンツやパッド等を使う場合もあるが、利用者に気を使わせない排泄支援である。</p>	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<p>(自己評価) 乳製品の食品や、便秘に良いとされる野菜や果物類を食事に取り入れる。水分補給を行う。本人の負担にならないようにレベルに合った運動を一緒に行う。2日3日排便のない場合は緩下剤を服用していただく。</p>	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	<p>(自己評価) 家族の面会の時間は避ける。また入浴時は、個別性を考慮し時には対面で、時には透き戸の向こうでお話をしながら30分程度を目安に支援している。入浴される方によるが、必要時は二人介助で安全におこなっている、入居されている皆様のご希望通り入浴して頂く事は難しい場合は、足浴や清拭を実施している。</p> <p>(外部評価) 利用者の入浴動作が見守りや軽介助の場合はユニットのお風呂を使うが、座位に問題がある場合は併設しているデイサービスの特浴を活用している。「お湯は一人ひとり入れ替えるので時間が掛り、1日4人程度です」と職員は言うが、共同生活でも個浴を楽しんでほしいとの配慮である。夏場と冬場、汗をかいた日、排泄に失敗があった等、利用者の状態を見ながら入浴支援は行われている。</p>	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<p>(自己評価) 体調の具合や寒がり、暑がりなどその方のペースに合わせて布団の調整をする。照明を調整する。妨げにならない程度に夜のテレビは意志どおりに見ていただき、終わり次第就寝を促す。就寝前のトイレ誘導や水分補給など安心して気持ちよく寝ることができるようにしている。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 訪問診療時に処方が変わった時には服薬ノートに記入する。職員に申し送りをする。誰が見ても間違いがなく判り易いセットの仕方を工夫している。症状の変化の有無を常に話し合っていく。また薬の変更等があった場合はご家族様に報告している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 個人の得意分野を理解した上で体調や表情を見ながらお願いし達成感を感じていただいている。毎日のテレビを見ながら、世相などを話しコミュニケーションを図っている。話をしながらの作業は気分転換にもなっていると思われる。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 毎月一回なるべく全員で出かけられるよう外出計画を立てている。また、年1回、ホーム全体で恒例の日帰旅行を実施している。今年はリフト付バスで津島町の南楽園に行き、参加者は入居者13名、ご家族様5名、職員9名の27名でした。その内、葉っぱからは入居者3名、ご家族2名、職員2名でした。 (外部評価) デイサービスを併設しているため、外出する際の車両は整っている。そのため遠出の外出は定期的実施し、また、管理者が外出する際には希望する人が同乗し、ドライブを楽しんでいる。1階の利用者は車いすでも気軽に外出ができ、外気を浴びている。その時間が1日のアクセントになっている。しかし、2階の利用者は危険回避の観点からユニット入りロドアが施錠されているため、それができない。日々の気軽な外気浴に工夫がほしい。	施錠の問題は身体拘束の観点でも解決する道を模索願いたい。外気浴では南側にデッキを造る構想があるとのこと。南側は田畑でその向こうに山裾が見え、季節が感じられる風景なので、2階部分に外気浴デッキを造るには予算上の問題はあるが、利用者の生活の質は上がるので一考願いたい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 認知症や物忘れがあるため、一部の方を除き、小口現金としてユニットで管理をしている。ご自分がお金を持っておく当たり前の状態が実践できていない。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) ご本人様の希望を第一に受け止め相手方のお許しがある場合は家族や大切な人に本人自らが電話をしたりできるような必ず支援を行っている。また言葉や表情を観察し「求め」を察する事ができる場合にも、職員が窓口となり支援をしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 夜間トイレ使用時トイレ周りの照明を点けておく。個人に合わせた温度設定をする。昼間横になる時にはカーテンを閉め眩しくない様にしておく。。壁飾りを作っている。2日に1回は掃除機をあてきれいにする。</p> <p>(外部評価) 共用空間は心地よい適度な広さである。台所も同じ空間なので一体感もあり、家庭的な空間と言って良い。廊下の突き当たりに共用空間を配しているのて独立性が高く、利用者それぞれの部屋と違う場所に来たと言う実感がある。空間にメリハリがきいて楽しい。住宅地に建っているため、窓からは人の生活が感じられる。目線を変えるだけでそれを見る事ができるリビングは、落ち着いて過ごせる空間となっている。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) アットホームな環境で食事の手伝いやタオルたたみなどを行ないながら、気の合う方同士でお話をされたりしています。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) ご入居時に、家具類、テレビ、布団、衣類等身の回りの全ての物品はご家族と相談し環境が許される限り本人の好みの物、使い慣れた覚えのあるもので揃えるようにしている。</p> <p>(外部評価) 社員寮を改装しているため洗面できる前室があり、居室の独立性が高い。また、床は元畳だったのをシート材に変更しているが、畳にも戻せるよう改装しているので、ベッドが苦手な人等は畳にしている。床材が畳でもシート材でも何時でも変えられるという気軽さはこの事業所ならではの工夫である。管理者の発案で、部屋にはその人が1番充実していたであろう時代の写真を飾っている。居室を利用者が自分を取り戻す空間としている支援であり、評価できる。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 一人ひとりの身体機能及び安全・安楽を考慮した工夫や失敗を招くことのない環境整備を今後図っていく。</p>	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870102401
法人名	有限会社ティーエムコーポレーション
事業所名	グループホームすみれの家
所在地	松山市北斎院町1072-1
自己評価作成日	平成27年9月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 27年 9月 30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

すみれグループの”私たちは、利用者の方々の「その人らしい生活」を大切に、穏やかで安心感にあふれる充実した生活を送ることができるようサポートします。”を基本理念として、自立、笑顔、思いやりを実現するために、①転倒を防止し、安全に暮らせる。②認知症状で物忘れや分からなくなることに驚き、悲しむ姿をみてやさしく接する。③帰宅願望があってもお一人お一人の個性を尊重し、笑顔を引き出す。④時間がかかったり、手順が分からなくても、できることはご自分でできるように自立を支援することができる。など障害を持った高齢の方々やそのご家族が、すみれの家を”終の棲家”として選んだことに悔いが残らないよう、最後は「幸せな人生だった」と感謝されるよう日々研鑽、努力を行なっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設者の医療現場を見てきた医師は、福祉で高齢者の終の棲家を造ると言う熱い思いでこの事業所を運営されている。利用者を看取るということは大切な事ではあるが、なかなかそれに対峙出来ない現実、管理者も職員も真摯に向かい合っている。職員の話の中で、利用者もそうであるが職員同士も支え合いながらターミナルケアを行っている状況がうかがえた。「送るときは利用者みんなで玄関から送り出す」の話に、普段から丁寧な支援を行っている事が分かる。死は特別な事ではなく、でも大切な事だとしているのは、「私もちゃんと送ってもらえる、1人ではない」と、生活している利用者にも安心感を与えている。事業所の支援は、これからの高齢社会に福祉現場ができる1つの形だと言える。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者及び非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホームすみれの家

(ユニット名) 花

記入者(管理者)
氏名 山本 誠一

評価完了日 平成 27年 9月 4日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 地域密着型のグループホームを目指し地域で行われる様々な行事にも参加している。管理者と職員は理念の共有をしている。</p> <p>(外部評価) 理念は運営法人により全体の事業の方向を指し示すために作られており、事業所独自の理念は、スペイン語で「やればできる」という意味の「シ・セ・プエデ」という言葉である。これは利用者や職員という枠組みではなく誰にでもあてはまることで、「人は何歳になっても“やればできる”」という意味で、理念を身近にする言葉を掲げている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 地域の行事である運動会・市民大清掃・盆踊り・地方祭に入居者や職員が参加したり、地域の方がホーム主催の夕涼み会や毎月1回玄関先で催す中山町特産品販売に来られ、入居者様や職員と交流を図っている。買い物サービスを受けている近所の方が、「楽しみにしている。遠方まで行けないので助かっている」と感謝される。</p> <p>(外部評価) 事業所は鉄筋の建物であるが、木造住宅が多い住宅団地にしっかりと馴染んでいる。これは、ここで長年事業所を運営している歴史から醸し出される味なのだろう。近くの小学校から下校している子ども達を、目を細めながら幾人もの利用者が窓から見送っている。この地域の住人と言った風情であり、日頃の交流が理解できる。</p>	地域の人からすると利用者は新しく引っ越してきた人であり、利用者からすると初めての土地である。それを職員が取り持って近所付き合いを成立させてきている。新しい利用者もいるが、それぞれが地域の住人となっている。ただ、仲介役の職員はそろそろ立ち位置を変える時期が来ているのではないか。利用者が主役で地域と付き合いには職員は利用者の後ろ側に控える位が良いと思う。利用者が地域の人と話すという意識を持つことにより事業所と地域の関係性は変わって行くと思われる。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) この2年程は味生小学校の生徒さんが社会見学と称してホームに来られている。入居されるお年寄りとお話したり、車椅子の操作やリクライニングベッドの操作などを体験し、障害を学ぶ場として生かされている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	<p>(自己評価) 運営推進会議は2カ月1回開催されており、ご家族様/町内会役員様/民生委員、西包括支援センター、市町村の担当者様を交えて屈託のない話し合いの場となっている。ご家族様の内情の吐露もみられ、良い会議となっている。</p> <p>(外部評価) 議事録は会議の状況が目につかぶ位に事細かく記載されている。添付しているレジュメも写真を入れて事業所の状態が良く理解でき、管理者の運営推進会議への思い入れが感じられる。議事は避難訓練、行事等や事業所での看取りについても取り上げており、多岐に渡っている。会議終了後に利用者とお話しする時間も用意しており、会議を事業所の運営に有効活用している。</p>	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	<p>(自己評価) 公的扶助を受ける方の相談や情報の交換を行い、対象が安心して暮らせるよう支援している。この最近では公民館などで開催される会議は特になく、参加できていないが、地域密着型事業者間の集まりや勉強会には参加している。</p> <p>(外部評価) 法人は地域で介護付き有料老人ホームや短期入居者生活介護、デイサービス、居宅介護支援等を運営している。従って法人担当者は、市担当者とは事業所の事だけではなく、高齢者の全般について話し合っている。また管理者は、市担当者と利用者の実質的な相談を行っている。法人と管理者は、高齢者問題の総論と各論と言った感じで市担当者との連携を持っている。</p>	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	<p>(自己評価) 玄関は夜間10時以降朝8時までの間施錠、昼間はフリーとなっている。2階は階段がすぐ近くにあるため、危険防止のためユニットの出入りに施錠をしている。1階のユニットは夕方5時以降朝8時までの間、施錠し昼間はフリーとしている。バルーン抜去などやむおえず行なう場合はご家族様と相談し、同意書を頂くようにしている。</p> <p>(外部評価) 事業所では虐待防止・拘束廃止委員会を作り、月2回程のペースで話し合いを持っている。現在悩ましいのは利用者の「安全」を守るべきなのか、「自由」を優先すべきなのか、である。事業所は元社員寮の建物なので、高齢者の安全を守る造りにはなっていない。違反建築ではないのだが、階段の位置など細やかな配慮に欠けている所がある。現在は「安全」を優先させて2階のユニット入口に施錠をしている。しかし管理者も職員もこれがベストと思っている訳ではない。</p>	2階の利用者の安全を考慮して鍵を掛けていることは理解できる。ユニットのドアを開けて直ぐに階段があり、踏み外すと1階まで落ち命にかかわることも想定される。だが施錠は利用者の精神的な拘束になっている事が多く、階段の位置を変える事が利用者の安全を守るには理想的であるが、物理的経済的な問題で今すぐには難しいと思われる。他の方法を模索するなど、考慮を深めてほしい。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) これまでは年1回、高齢者の人権や虐待防止について職員研修を行ってきたが、本年6月からは「身体拘束廃止、虐待防止委員会」を発足し、2ヶ月に1回程度開催し、内部点検を行なっている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 対象者はいないが、必要性について全員が理解し支援について話し合っていく必要がある。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入居者様及び家族様と管理者、内容によっては医療関係者と説明を行い十分な理解同意の上で契約を行っている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 玄関には「ご意見箱」を設置し意見の収集を図っている。面会時にご要望やご意見を伺ったり、年1回全家族様からアンケート調査を行ない、満足度調査を行なっている。入居者様及び家族様のご意見ご要望は、貴重な事と受け止め、どのような事でもひとつひとつお答えできるよう日々のミーティングなどで情報の共有を行っている。 (外部評価) 家族等と話し合いが必要な場合に應對する役目は各ユニット長である。窓口を一本化しておいた方が話しの理解度が深いためである。また、年1回、事業所独自の家族アンケートを取っている。アンケート内容は家族に事業所を評価してもらおうと設問が設定されている。職員には記名者が分からないような配慮があり本音が聞け、利用者の身だしなみや部屋の掃除について段階形式な評価になっている。アンケートの集計は家族等に返送しており、信頼関係が強化できる取組みである。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の見 意見や提案を聞く機会を設け、反映させてい る	(自己評価) 管理者がユニットを訪問し、職員の意見や提案を吸い上げ 統括部長に相談している。また3ユニットの責任者と管理者 が2週間に一度の会議を持ち、責任者から報告を受け、本社 で開かれる管理者会議に於いて報告している。月に1回開催 のユニット会議で話しあったことや要望を議事録にとり、 本社にファックスしている。 (外部評価) 法人全体で考えれば管理者は中間管理職であり、様々な事 案の最終決定は代表者であるが、この事業所では管理者が 決済できる範囲が広く、職員の思いを身近で汲み取ってい る。管理者は事業所内研修では、職員が講師となることを 推奨している。職員が講師になることで管理者に相談等で 話し合いが増え、その折に事業所運営の意見が出ることも あるそうだ。職員の提案機会を増やしている取組みでもあ り、評価できる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実 績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時 間、やりがいなど、各自が向上心を持って 働けるよう職場環境・条件の整備に努めて いる	(自己評価) 個別職能レベルを把握できるよう年1回の個別面談や必要時 は個別相談を受けている。勤務シフト作成時には労働パ ターンを考慮したり、個人の希望休をできるだけ(1シフト に2回程度)反映できるよう考慮している。今後も更に向上 できるよう取り組んでいく。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケア の実際と力量を把握し、法人内外の研修を 受ける機会の確保や、働きながらトレーニ ングしていくことを進めている	(自己評価) 法人内外の研修についてその都度ユニットに情報を廻し回 覧できる仕組みを作っている。人員等で外部研修がなかな か受けられないため、社内研修を増やし、知識の向上に努 めている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流す る機会をつくり、ネットワークづくりや勉 強会、相互訪問等の活動を通じて、サービ スの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) グループホーム連絡協議会主催の相互研修に参加したり、 その都度ユニットに情報を廻し回覧できる仕組みを作っ ている。また参加を促すために、勤務時間帯に出席できるよ う人員を手厚くするような勤務シフトを作成するよう努力 している。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が 困っていること、不安なこと、要望等に耳 を傾けながら、本人の安心を確保するた めの関係づくりに努めている	(自己評価) ご本人様が安心して生活していけるよう関わりを多く持ち 良好な関係作りを行っている。また利用前訪問調査表を基 礎知識としながら実際の状態との差を考えご本人様の求め る「支援」・必要な「支援」に擦り合わせ、個別の安心や安楽 を追求する努力をしている。	

自己 評価	外部 評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) ご入居までの流れについて資料を使いご説明し、ご入居申し込みから利用前訪問調査時の際に不安やご要望お伺いし、サービス開始後にお話しした事との内容に差がないようにしている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) ご入居までの流れを資料を使いご説明し、ご入居申し込み～ご入居のご契約～利用前訪問調査時の際に、必要な支援をお伺いし見極め、その人にとっての「良好」な状態を保つ様に努力している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 本人様やご家族様、また介護の中で得られる情報を整理し出来る事を見出し実践できるよう支援している。そこから共有・共感できる関係作りをじっくり行っている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 本人様と家族様の中間的立場を意識し、報告や連絡・相談を密に行い共にご入居者様を支えていけるよう努力している。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) ご面会は※1特別な事情(※1…本人様・家族様のご要望等)がない限りは早朝、昼間、夜間でも就寝前であれば、いつでも対応可能としている。特に入所もないケースではご家族様の面会を出来るだけ多く、毎日でも来ていただけるようお願いしている。 (外部評価) 事業所では「ここが終の棲家」と利用者や家族に話しをしている。「この場所に馴染む、この人間関係に馴染む」ための支援に心を砕いている。さらに、利用者の「家に帰りたいたい」は自宅ではなく、「自分自身の1番いい時代に帰りたいたい」と言っている事が少なくないと管理者は言う。認知症かどうかに関係なく、人間本来の気持ちに寄り添って馴染むことを支援している事業所である。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 入居者様が孤立することなく、共に暮らしの中で助け合えるよう、共通の話題作りを投げかけ、外出をはじめ各種行事やお手伝いを通して共に生活を「楽しめる」様に支援している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) この5年間に在宅に移行したケースはなく、治療が必要となり、病院に移ったケースがある。移り「移り住む事のダメージ」を最小限に食い止めるため家族様や移り住む先の関係者に対して、ケアの工夫・生活習慣などの情報を伝える支援を行っている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 生活を援助する上で一番大切な部分であり、その時々によっても変化する意向の収集を行い日報等に記入している。またその情報を活かせるようショートミーティングを開き実践している。対応が難しい場合には、ご家族様へ相談を行いなるべくご意向に沿えるよう努力している。 (外部評価) 管理者は職員に、利用者の事が分からなくなったら、「自分だったら、自分の家族だったらどう思うか」と話し、利用者を理解する原点についてアドバイスしている。食事の時に職員が「これじゃなかった？えっこれで良かったの、ああやっぱり」と言っていた。管理者が言っている「自分だったら」の指導が行き届いていると感じられた。今や職員はこれが普通の業務になっており、利用者本位の支援である。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 利用前訪問調査時の際に、生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等が分かるような聞き取りを行い、これまでの生活が維持できるよう努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 利用前訪問調査時の際に、一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の状態が分かるような聞き取りを行っている。ご入居後にも、情報を基に生活のリズムに沿って心身状態、有する力の把握をしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	<p>(自己評価) 本人様、家族様の意向を確認し、プランに反映している。ご利用開始時は初回作成として1か月(退院時も含む)、その後は3か月に一度更新を基本としている。またモニタリングを1か月に1度ユニット会議でおこなっている。</p> <p>(外部評価) 事業所の記録の整備と記載状況をみると、介護計画もモニタリングもきちりしている事が分かる。介護計画では、その項目がなぜ必要かを分析・記録しており、モニタリングでもできない行為にも意味を見出している。記録の清書を管理者がしていると聞いたため、「とても時間を要しますね」と聞くと、「気が付いたら窓の外が真っ暗になっており、職員がまだ帰らないのかと言っている」と笑っていた。この気持ちが「チームでつくる」を下支えしていると感じられた。</p>	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	<p>(自己評価) 職員間で情報を共有しながら、職員しか知り得ない事柄(個別のコミュニケーション方法)やケアの気づきを具体的に記入しながら介護計画の見直しに活かしている。</p>	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	<p>(自己評価) 外出希望等の急なニーズ等にも出来る限り対応できるよう努力している。</p>	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	<p>(自己評価) 年間計画を立て、毎月、ボランティアによる行事をデイサービスと合同で開催している。また近隣の美容院より出張サービスがあり、利用をしている。また可能な限りご本人様と共に美容院へ出向く事も行っている。今後更に向上を図っていきたい。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	<p>(自己評価)</p> <p>2週間に一度かかりつけ医の個別訪問診療を受けている。馴染みの先生という観点からも安心した適切な医療を受けられるように支援している。また状態やご希望があれば、他病院の受診もご家族様と相談して行なっている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>元々の法人代表者は診療所の医者であったため、かかりつけ医は入居時に事業所の協力医に変わる取り決めがあった。現在の代表者は奥様が変わっているが、その取り決めは今も継続している。これは利用者や家族等も納得しており、システム化されている事業所の医療支援に安心感が高い。</p>	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	<p>(自己評価)</p> <p>表情や体調等に変化があれば、看護師に相談を行う。直ぐに対応が必要な場合は主治医へ連絡し指示を仰ぎ対応している。また2週間に1度の訪問診療時には状態を医師へ報告し個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<p>(自己評価)</p> <p>入退院時は、病院関係者と情報交換(入院時には、ホームから看護サマリーを作成し、基本情報やお薬の説明、入院までの経緯を提供している。退院時には病院から看護サマリーや診療情報をいただいている。)を行っている。また入院中も出来る限りお見舞いに行き、情報を取り入れることとしている。</p>	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価)</p> <p>ご入居の際に一律に「看取りに関する指針」を提示ご説明している。時期が来た場合に家族様、主治医、管理者、ユニット長、看護師にて重度化や終末期に向けた方針の共有と支援について話し合いを行っている。同時に看取りのケアプランを作成し、(連絡/相談/報告しながら必要に応じて見直し。)職員全体で支援に取り組んでいる</p> <p>(外部評価)</p> <p>法人の方針で「事業所を終の棲家に」の体制作りを開設段階から進めている。事業所も開設14年目になるので、多くの方の看取りを経験している。職員達も異口同音に「最後までお世話できて良かった」と言い、職員間で支え合う仕組みができていく事が分かる。亡くなられた時は、他の利用者と共に玄関で見送っているとのことで、命と真摯に向かい合っている取組みである。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) マニュアルを作成し設置している。また一目で分かるようなフローチャートも作成し掲示している。また看取り時の特殊な対応に関しても対象者別に作成し、ファイリングを行っている。実践力に関しては定期的な訓練で補って行きたい。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) マニュアルを作成し設置している。年に2回消防署立会いの上、消防訓練は行っている。災害対応の実践力に関しては課題が残されており定期的な訓練を行っていききたい。 (外部評価) 事業所内の家具には転倒予防の金具を、棚の物には落下防止をと災害に関して日頃から対策を練っている。車いす用トイレには、手を伸ばしやすい所に籐の籠が置いてあり、何気なく中身に目をやると大型の懐中電灯があった。夜間避難する時、トイレで停電すると身繕い等で手間取るし、足元が危ない。そのための備えで置いていることに気が付いた。あらゆることを想定した備品配置を見て、災害対策がしっかりしている事を確認した。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 日々のショートミーティング時や月に1度のユニットカンファレンスの際に個別対応についての報告連絡相談を行い一人ひとりの尊重とプライバシーの確保に努めている。 (外部評価) 元社員寮の造りには、部屋に入ったらプライベート空間と言った雰囲気がある。職員は居室のドア越しに「失礼します」と声を掛けており、ハード面と合せてプライバシーの確保ができています。ある部屋の前に三味線の「師範」の立派な木目の看板があった。その人の生きてきた証であり、今もその時代を感じて貰いたいという事業所の思いでもある。人格を尊重している支援と言える。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 起床時間・食事形態や衣類選定等で希望表出/自己決定の場面を数多く設けられる様に見守りや声掛けの支援を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 居室で過ごしたい時は居室で…等やりたい事がある方にはこちらの流れを押しつけず自分流の方法で過ごして頂く様見守りを行っている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 起床時、洗面、口腔、整髪、衣類など本人の希望を聞き皆さんに自分でできる範囲の身だしなみをおこなっていただく。きれいになっていく喜びを分かち合う。更衣が自力可能な方には重ね着になっていないか、季節に合った物を着ているかなど観察し対応している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 嫌いな食事は量を減らしたり、他の物と替えたりと少しでも食べて頂けるようにしている。また、体調や嚥下状態に合わせてお粥、刻み、ミキサー食等にも細かく対応している。料理の下準備や盛り付け、後片付けなど出来る方にはお手伝いをお願いしている。	
			(外部評価) 食事は3ユニットそれぞれでメニューが異なっていた。利用者の好みを中心に献立を考えているため、お粥やミキサー食、刻み食にも対応しており、ユニット毎に調理には個性がある。医療的ケアに職員の手が取られると、食事の提供時間を短縮する傾向がみられるようになるが、この事業所では「準備や後片付けも食事を楽しむ時間、特に調理の音や匂い」と手作りにこだわっている。男性の利用者がテレビに目をやりながらも、台所を気にする昔ながらの優しい食事の一時であった。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事の量はその方が食べれる量を盛ったり、介助の必要な方に対しては食べ易くカットしたりミキサーやトロミにて一人ひとりに応じた食事形態を心掛けている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 歯磨き、うがいの出来ない方にはガーゼを湿らせて拭き取る。忘れる方へは出来るところまで声掛けをしていき後のケアを介助していく。義歯は就寝前に外し洗浄液につけている。口腔内のチェックを常に行い、清潔保持に努めています。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<p>(自己評価) 管理表を使用し、一人ひとりの排泄パターンの把握に努め、声掛けや誘導を行っている。トイレでの自然な排泄を大切に、リハビリパンツやパット類も入居者様に合わせて調節している。排泄動作が自立している方は誘導や後始末の支援を実施している。</p> <p>(外部評価) 利用者の殆んどは、昼間だけでなく夜間もトイレで排泄を行っている。勿論職員が見守っているが、気兼ねなくトイレ誘導を依頼できる安心感があるからだろう。「トイレの方が気持ちいい」と利用者の本音を察知している表れと言える。利用者の状態を見て紙パンツやパッド等を使う場合もあるが、利用者に気を使わせない排泄支援である。</p>	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<p>(自己評価) 乳製品の食品や、便秘に良いとされる野菜や果物類を食事に取り入れる。水分補給を行う。本人の負担にならないようにレベルに合った運動を一緒に行う。2日3日排便のない場合は緩下剤を服用していただく。</p>	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	<p>(自己評価) 家族の面会の時間は避ける。また入浴時は、個別性を考慮し時には対面で、時には透き戸の向こうでお話をしながら30分程度を目安に支援している。入浴される方によるが、必要時は二人介助で安全におこなっている、入居されている皆様のご希望通り入浴して頂く事は難しい場合は、足浴や清拭を実施している。</p> <p>(外部評価) 利用者の入浴動作が見守りや軽介助の場合はユニットのお風呂を使うが、座位に問題がある場合は併設しているデイサービスの特浴を活用している。「お湯は一人ひとり入れ替えるので時間が掛り、1日4人程度です」と職員は言うが、共同生活でも個浴を楽しんでほしいとの配慮である。夏場と冬場、汗をかいた日、排泄に失敗があった等、利用者の状態を見ながら入浴支援は行われている。</p>	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<p>(自己評価) 体調の具合や寒がり、暑がりなどその方のペースに合わせて布団の調整をする。照明を調整する。妨げにならない程度に夜のテレビは意志どおりに見ていただき、終わり次第就寝を促す。就寝前のトイレ誘導や水分補給など安心して気持ちよく寝ることができるようにしている。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 訪問診療時に処方が変わった時には服薬ノートに記入する。職員に申し送りをする。誰が見ても間違いがなく判り易いセットの仕方を工夫している。症状の変化の有無を常に話し合っていく。また薬の変更等があった場合はご家族様に報告している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 個人の得意分野を理解した上で体調や表情を見ながらお願いし達成感を感じていただいている。毎日のテレビを見ながら、世相などを話しコミュニケーションを図っている。話をしながらの作業は気分転換にもなっていると思われる。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 毎月一回なるべく全員で出かけられるよう外出計画を立てている。また、年一回、ホーム全体で恒例の日帰旅行を実施している。今年はリフト付バスで津島町の南楽園に行き、参加者は入居者13名、ご家族様5名、職員9名の27名でした。その内花は、入居者4名、ご家族2名、職員3名でした。 (外部評価) デイサービスを併設しているため、外出する際の車両は整っている。そのため遠出の外出は定期的実施し、また、管理者が外出する際には希望する人が同乗し、ドライブを楽しんでいる。1階の利用者は車いすでも気軽に外出ができ、外気を浴びている。その時間が1日のアクセントになっている。しかし、2階の利用者は危険回避の観点からユニット入りロドアが施錠されているため、それができない。日々の気軽な外気浴に工夫がほしい。	施錠の問題は身体拘束の観点でも解決する道を模索願いたい。外気浴では南側にデッキを造る構想があるとのこと。南側は田畑でその向こうに山裾が見え、季節が感じられる風景なので、2階部分に外気浴デッキを造るには予算上の問題はあるが、利用者の生活の質は上がるので一考願いたい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 認知症や物忘れがあるため、一部の方を除き、小口現金としてユニットで管理をしている。ご自分がお金を持っておく当たり前の状態が実践できていない。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) ご本人様の希望を第一に受け止め相手方のお許しがある場合は家族や大切な人に本人自らが電話をしたりできるような必ず支援を行っている。また言葉や表情を観察し「求め」を察する事ができる場合にも、職員が窓口となり支援をしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 夜間トイレ使用時トイレ周りの照明を点けておく。個人に合わせた温度設定をする。昼間横になる時にはカーテンを閉め眩しくない様にしておく。。壁飾りを作っている。2日に1回は掃除機をあてきれいにする。</p> <p>(外部評価) 共用空間は心地よい適度な広さである。台所も同じ空間なので一体感もあり、家庭的な空間と言って良い。廊下の突き当たりに共用空間を配しているのて独立性が高く、利用者それぞれの部屋と違う場所に来たと言う実感がある。空間にメリハリがきいて楽しい。住宅地に建っているため、窓からは人の生活が感じられる。目線を変えるだけでそれを見る事ができるリビングは、落ち着いて過ごせる空間となっている。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) リビング内は少し狭いが、アットホームな環境で食事の手伝いやタオルたたみなどを行ないながら、気の合う方同士でお話をされたりしています。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) ご入居時に、家具類、テレビ、布団、衣類等身の回りの全ての物品はご家族と相談し環境が許される限り本人の好みの物、使い慣れた覚えのあるもので揃えるようにしている。</p> <p>(外部評価) 社員寮を改装しているため洗面できる前室があり、居室の独立性が高い。また、床は元畳だったのをシート材に変更しているが、畳にも戻せるよう改装しているのて、ベッドが苦手な人等は畳にしている。床材が畳でもシート材でも何時でも変えられるという気軽さはこの事業所ならではの工夫である。管理者の発案で、部屋にはその人が1番充実していたであろう時代の写真を飾っている。居室を利用者が自分を取り戻す空間としている支援であり、評価できる。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 一人ひとりの身体機能及び安全・安楽を考慮した工夫や失敗を招くことのない環境整備を今後図っていく。</p>	